

目的：我々はこれまでに、消費者の立場から、8機種の新水流洗濯機を用いて、各社の指示する洗浄方法に従い、アクリル毛布の洗浄を行い、洗浄力、被洗物の性能変化、すすぎ性、操作性を検討してきた。その結果、洗浄時に使用する洗濯ネットの使用の有無、ネット内への毛布の入れ方などが影響することが明らかになった。本報では、効果的な毛布洗浄の一要因である洗濯ネットの影響を中心に検討した。

方法：家庭用洗濯機3種(全自動式2種,二槽式1種)につき、アクリル100%毛布を試料布として、界面活性剤LAS(0.04%),水量高水位,液温 $30\pm 2^{\circ}\text{C}$ とし、洗浄・すすぎなどの行程は各社の指示を基準にして洗浄した。洗濯ネットは使用の有無、使用の際はその大きさ、メッシュを変えて繰り返し10回洗浄した。洗浄力の評価は、油化学協会法人工汚染布を毛布の数箇所に取り付けて洗浄し、洗浄効率を求め、毛布の性能変化は、収縮率,重量減,風合いの変化の比較により、またすすぎ性は、洗浄残液をHPLCにより分析し、LAS回収率を求めて、比較検討した。

結果：洗濯ネットの使用により全体に洗浄効率は低下し、汚染布取り付け位置によるバラツキがネットを使用しない場合に比べて大きくあらわれる。またすすぎ性も低下する。この点でネット使用は必ずしも得策ではない。しかし性能変化については、収縮率,重量減においても、またすすぎわり・表面状態等の風合いについてもネットによる機械力の軽減から、ネットを使用しない場合に比べてかなりよい結果となった。ネットについては、その大きさ,形,メッシュの大きさなどによって、風合いの保持とともに洗浄効率,すすぎ性の向上をはかることが可能で、これについても比較検討した。